

2025年2月7日(荒木)

### 震災技術展 講演会聴取メモ

日時:2025年2月6日(木)10時~17時

場所:横浜パシフィコ ホールD

1. 講演(F会場) 時刻:10:30~11:15

講演者:東京大学先端科学技術センター 教授 廣井悠氏

演題:「令和6年能登半島地震における市街火災と津波火災対策

<メモ>

課題 (1)市街地火災の消火活動が上手くできなかった主要原因:消火栓使えなかった(水道破損)

(2)高齢化率:LPガス元栓締め忘れ(7~8割)

(3)津波周知があったため、多くの市民が避難して初期消火活動まで行う人はわずか5%  
対策・水道管の耐震化、耐震ブレーカー自動化(ガス元栓含む)、

2. 講演(F会場) 時刻:12:15~13:00

講演者:国士館大学理工学部・理工学科 まちづくり系 特任教授

防災・救急救助総合研究所 研究員 博士(工学) 橋本孝雄氏

演題:「令和6年能登半島地震災害における宅地地盤の被災状況と今後の対策」

<メモ>

(1)石川県海岸の砂丘地:内灘町で大きな液状化被害が発生

(2)新潟市西区大野地区~善久地区等の砂丘地でも石川県砂丘地と同様の液状化被害発生

⇒液状化対策:「地下水位低下工法」が有効である・・・<https://www.legend-pipe.jp/>

(2024/11/27 北海道胆振地震の時に札幌市で実証済のリターン型パイプ工法も紹介)

(3)金沢北稜高校での谷埋め盛り土の崩落被害

⇒水抜き(排水対策)が重要!

(4)糸魚川京ヶ峰の擁壁(補強策) \*地下水の浸透は豪雨後1か月遅れで谷筋の地崩れ!

(5)岡山県矢掛町、横浜市の石積み補強工法の紹介:擁壁バットレス工法↓

<https://bunkazai-ishigaki.com/>

3. 講演(F会場) 時刻:14:30~(15:45頃、途中退席)

講演者:(注)以下3名の講演を受講後に退席

① 千葉大学 大学院工学研究院 教授 丸山喜久氏

(演題)能登半島地震から1年、被災地から学ぶこと ~ライフラインの被害~

・のと里山海道の被害:2007年3月後の復旧改良工事が未完成であった。

- \* 四車線化工事の途上での被災であったため、復旧遅れの大きな原因となった。
- ・最新型の耐震型ダグタイムも今回 M7.4 地震による大きな地崩れでは上下水管破損
- ・珠洲市の配水用PE管の被害も大きな変形を起こした被害例であった。
- \* これらは国内初めての被害であり、今後において更なる改善が求められる。

② 珠洲市市民課課長 高田吉明氏

(演題)地震・豪雨の支援を受けて

- ・水の問題:まだ全戸に行き届いていない(電気は通ったが。)
- ・大谷地区(外浦)では、9月豪雨での地滑り被害で罹災証明の申請が423件も有った。  
農地被害:泥撤去と用水確保ができない状況が続いている
- ・みなし仮設住民:9,258人(金沢市移住者を含む)が居る状況である。
- \* 地震発災後に千葉市から2,200人の支援を受けたことに感謝したい。

③ 東京海上ディーアール株式会社 経営企画部 主任研究員 指田朝久氏

(演題)「令和6年能登半島地震からみた企業対策への教訓」

以上